初歩の人のための

幼児心理の勉強のすすめかた

西本　脩

保育の理想や具体的な目標・方針といったものは、各園によってそれぞれ違うでしょうし、ひとりひとりの保育者も考えが異なるでしょう。また時代がうつり変り、社会形態が変化するにつれて、変るでしょう。けれども、たとえどのような理想目標のもとで保育がおこなわれるにしても、いつも変らないのは、保育の主体である幼児そのものです。したがって、保育の第一歩は、まずこの幼児を知るということ、いいかえれば、幼児の理解ということから出発しなければなりません。

もちろん、このことは、今までもずいぶん叫ばれてきましたから、今更、こと新らしくいう必要はないかもしれません。しかしながら、私たちは、はたして、これまで本当に幼児を十分に理解して保育してきたでしょうか。ルソーは「エミール」の序文において、「われわれは子どもというものを、少しでも理解してはいない。子どものことで、今のように誤った考えを抱いている限り、進めば進むほど迷うだけである。一番利口な人でも、おとなが学ぶべきことばかりを考えていて、子どもが何を学ぶことのできる状態にあるかを考えはしない。彼らは、常に子どものうちにおとなを求めていて、おとなになる前に子どもがどんなものであったかを考えない。」といっていますが、「これは『エミール』を書いた、今から二百年も前の時代のことであって、現代は事情が違う」といってすましているわけにもいかないように思います。程度の差こそあれ、私たちは子どもというものをあまり理解していないのではないでしょうか。ルソーのことばを聞いて、頭から冷水を浴せられたような気がする人や、あるいは耳の痛い思いをする人が多いことでしょう。

ここで、私たちは、これまでおこなってきた日の保育のやり方をもう一度反省してみましょう。幼児には無理なようなことを、知らず知らずの間にさせたりはしなかったでしょうか。子どもの気持ちを考えないで、おとなの考えをしいたりしたことはなかったでしょうか。

ひとりの子どもの違い（個人差）を忘れて、一ぱひとからげの扱いをしたことはなかったでしょうか。

これらのことについて、思い当ることのある人は、幼児をよく理解するために、また、思いあたることのない人、幼児を理解した扱いをやってきたという自信のある人も、さらにいっそうその理解を深めるために、勉強いたしましょう。

それならば、私たちは、どうすれば幼児を本当に理解することができるでしょうか。先ず、幼児の心やからだの特質、およびその成長発達の過程についての知識を持つために、幼児心理学や発達心理学の良い書物や研究報告を読むことが必要です。

ここでは、幼児のからだの方面のことについてはふれないことにして、幼児の心理的な面についての理解を深めるのに役立つような書物を紹介しましょう。なお、今までに出版されたものすべてを挙げるとなると、枚挙にいとまありませんから、比較的手に入れやすいものの中から選んであげることにします。

一、初級程度（入門的・啓蒙的なものを含む）

1　及川ふみ著「保育」　光生館　昭和三一年

この本は、幼児教育の現場にあるものが知っておかなければならないと思われる、幼児

の精神発達の状態について、指導の実際面と関連させながら述べてあります。

2　教師養成研究会幼児教育部会編「幼児の心理」　学芸図書　昭和三一年

この本は、子どもたちの見方、子どもの行動の理解のしかたを、幼児の成長と発達の段階を追って述べているテキスト的なもの。

3　阪本一郎著「幼児の愛育心理」　牧書店　昭和三一年

この本は、著者が幼児教育心理学として、体系づけを試みられた一般向きのユニークな本です。

4　園原太郎・鰺坂二夫共著「子供の心理としつけ」　光生館　昭和三三年

この本は、生まれた時から学童期までの子どもの発達の姿を母親向きにわかりやすく述べたもの。

6　波多野勤子著「幼児の心理」　光文社　昭和二十九年

この本は、一才から六才までの子どもを、年令を追って、それぞれ、その心理的特徴、しつけるべきこと、育てる上の注意など、実際に役立つよう述べられている。

6　三木安正著「幼児の心理と教育」　国土社　昭和二四年

この本は、題名のとおり、幼稚園や保育所における保育との関連において、著者の実験や経験をもとに、幼児の心理を述べている。

7　守屋光雄著「子供を見る眼」　創元社　昭和三一年

この本は、著者が教育相談や日常生活においてふれたなまの資料をもとにして、やさしく書かれた随筆集のような読みやすい本で、当世のいろいろな教育問題をたくみに扱っている。

二、中級程度（やや専門的なもの）

1　高橋省己著「幼児教育心理学」　関書院　昭和三二年

この本は、幼児の心理を実証的、科学的な資料をもとにして述べるとともに、教育心理学的な立場から、保育指導の実際問題をも扱っている。

2　田中熊次郎著「保育のための幼児心理学」ひかりのくに昭和出版　昭和三二年

この本は、著者自身が幼児たちの生活の中に入りこんで実験し、調査して得た資料をもとにして書かれた特色のある本です。

3　松村康平著「保育のための幼児心理」厚生閣　昭和三〇年

この本は、抽象的な理論ではなく、実践を通して、実際に役立つ研究をめざしている著者の意図があらわれており、幼児心理の理論と保育の実際とのつながりをもたせたユニークな本です。

4　守屋光雄著「幼稚園児」　金子書房　昭和二九年

本書は、幼児心理に関する戦後の新らしい思潮の中で、とくに保育界において問題になっている、幼児の要求、欲求不満、投影法などの諸問題を具体的に、保育の実際に役立つよう述べてある。

5　山下俊郎著「改訂幼児心理学」　朝倉書店　昭和三〇年

この書は、すでに定評のある旧版に、新らしい研究の成果をもりこんで改訂増補されたもので、乳幼児の心理全般について、わかりやすく書かれた標準的なテキストです。

三、上級程度（かなり専門的なもの）

1　A・ゲゼル著・山下俊郎訳「乳幼児の心理学――出生より五才まで」　新教育協会　昭和二七年

2　A・ゲゼル著・依田新・岡宏子訳「乳幼児と現代の文化――その発達と指導」　新教育協会　昭和二九年

前者は五才までの乳幼児の各年令段階について、いろいろな面からその発達をあとづけており、後者は、子どもが家庭や幼稚園や地域社会の文化的環境の中で、どのように成長していくかということを、保育との関連において述べています。両著とも訳文は読みやすい。

3　武政太郎著「総説発達心理学」　講談社　昭和三三年

この本は、胎児期からおとなになるまでの人間の成長の過程を一貫して述べていますが、ことに巻末の文献集とともに、日本における今までの重要な研究が要領よく紹介され

ていて、幼児心理学の研究をするものにとっては極めて重宝なもの。

3　松村康平編「児童理解の方法」　誠信書房　昭和三三年

本書は、お茶の水女子大学家政学部児童学科の卒業論文集ですが、編者はこれをうまく編集して体系づけています。特に、各研究の研究法に重点をおいて書かれているので、研究をしようとする人たちには、非常に参考になります。

以上紹介したものは、いずれも幼児の心理一般に関してか、あるいは標準的(平均的)な発達過程に関して書かれたものであって、幼児というものを一般的に理解するのには、非常に有益ですが、ひとりひとりの幼児の実際的指導には必らずしも役に立ちません。私たちが日常保育している子どもは、ひとりびとり個性をもっていて、みな違っています。したがって、私たちは、幼児の一般的な心理や標準的発達についての知識をもつとともに、いろいろな個性をもった子どもについても研究しなければなりません。

そのための良書としては、

1　大西憲明編「幼児の個性をどうとらえるか」(保育診断講座1)　黎明書房　昭和三四年

2　大西憲明編「困った幼児にどうしてなったか」(保育診断講座2)　黎明書房　昭和三四年

3　品川不二郎著「幼児の教育相談」　牧書店　昭和三一年

4　平井信義著「子供の精神衛生」　同文書院　昭和三三年

5　森脇要著「保育のための臨床心理学」厚生閣　昭和三〇年

6　山下俊郎著「児童相談」光文社　昭和二九年

7　山下俊郎著「ひとりっ子の心理と教育」牧書店　昭和三三年

などが挙げられましょう。

なおその他、つぎの講座の中にも、幼児の精神発達や精神衛生、問題児のことが述べられています。

1　牛島義友・谷川貞夫・平井信義編「現代保育講座」(第一巻「保育の原理」、第四巻「養護と文化」)金子書房　昭和三一年

2　品川不二郎・松村康平編「幼児児童教育講座」(第一巻「子どもの生長」、第五巻「心の健康」)　福村書店　昭和二九年

前にもことわっておきましたように、ここに挙げたもの以外にも良書がたくさん出ていますが、紙数の関係もあり、ただ一つの参考として、限られたわずかなものしかあげられませんでした。どうか、自分でよいと思う書物を選んで、たとえ一、二冊でもよろしいから、熟読してください。

最後に申しそえておきたいことは、日日の保育の実践の中で、あるがままの幼児を観察し、記録していただきたいということです。今まで紹介したような良い書物や雑誌にのっている研究報告を読むことの大切なことはいうまでもありませんが、それにもまして大切なことは、生きたひとりひとりの幼児の現実の姿を、具体的に知るということであり、そのためには、ぜひとも、あるがままの幼児を観察しなければならないからです。

(大阪樟蔭女子大学)

さらに勉強しようとする人のための参考書

田中熊次郎「児童集団心理学」明治図書　昭和三二年

長島貞夫「児童社会心理学」牧書店　昭和三一年

古籏安好「教育社会心理学」金沢書店　昭和三一年

松村康平・森重敏編「児童心理学」誠信書房　昭和三二年

波多野完治・依田新編「児童心理学ハンドブック」金子書房　昭和三四年

ハヴィグハースト・荘司雅子訳「人間の発達課題と教育」牧書店　昭和三二年

アンナ・フロイド、外林大作訳「自我と防衛」誠信書房　昭和三三年

E・H・エリクソン「幼年期と社会」日本教文社　昭和二九年